

④碾茶生産ラインを整備して輸出を拡大 【丸山製茶株式会社（掛川市）】

■活用した事業

「産地生産基盤パワーアップ事業」を活用して碾茶生産施設を整備

■経営の概況

20年ほど前から専門部署を設けて輸出に取り組んでおり、現在は有機JAS、FSSC22000、コーシャ、ハラール、RA(レインフォレスト)の認証を取得している。主に抹茶が輸出量の増加を牽引しており、碾茶の需要が高まっている。もともとEUへの輸出が多かったが、最近は米国への輸出も増えている。

また、令和6年には農林水産省から「フラッグシップ輸出産地」に認定されている。

■取組内容

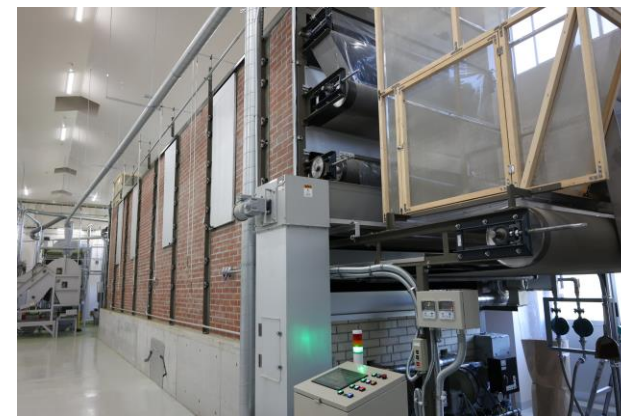
・碾茶生産施設の整備

海外からの旺盛な抹茶の需要に応えるため、令和6年に碾茶工場を竣工し、秋から稼働している。碾茶炉はレンガ炉で、国内で初めてのガス式レンガ炉となっている。

国内での碾茶生産が増える中で、「宇治の抹茶はレンガ炉で作った高級品で、静岡の抹茶は簡易炉で作った普通の抹茶」というイメージを覆したいと考え、静岡県内でも高級抹茶を生産できることを示すためにレンガ炉とした。また、ガス炉は従来の重油を使った炉に比べてCO2排出量が1/3程度であり、環境への影響が低い。海外のバイヤーが環境を重視する中で、それをアピールするためにガス式レンガ炉とした。

・農業生産法人との合併

年々茶農家が減少してこのままでは原料の安定供給が出来なくなってしまうという危機感から、生産部門を内製化するため、農業生産法人「まるやま農場」を12年前に設立し、令和5年12月に丸山製茶と合併して社内の農業部門となった。経営面積は10haで、農地中間管理機構を通じて貸借している。



碾茶生産ライン（手前のネットが蒸した茶葉を噴き上げて冷まし、奥のレンガ炉で乾燥する）



施設の外観
（この中で碾茶を生産する）



秋に生産した碾茶